



創刊 1975年 親

No. 954

2021/8/1

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒111-0953  
東京都台東区浅草橋2-2-3  
浅草7-5-5 館  
電話 03-0280-2140(TEL)  
FAX 03-0280-2141  
http://www.jcf-jcfr.jp  
E-mail: nicchukayama@nicchukayama.co.jp  
社印 00119-1-21178

日中友好協会  
岡山支部  
〒705-0034  
岡山市北区下伊福  
西町1-59 民主会館1F  
TEL: FAX 0861-258-1806

日中友好協会  
倉敷支部  
〒712-8031  
倉敷市福成町東22461-45  
TEL: FAX 0861-411-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>  
メールアドレス  
nicchukayama@yahoo.co.jp



## 2021年度日中岡山支部総会が開催されました

真田紀子

7月18日の日曜日午前10時から、岡山市福祉交流プラザ旭東で、標記の会が開催されました。当日の参加者は17人でした。

司会の竹内さん(理事)の発声で、10時に開会され、まず岡山支部の支部長である私があいさつをしました。

おはようございます。今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。現在の日中友好運動の状況は大変厳しいものになっています。中国の対外的な大国主義の方針により、様々な軋轢

を生んでいる状況から、日本の世論も厳しいものがあります。また、会員の高齢化による会員減もとまりません。

その中でも、明るい兆しも見えてきています。昨年11月に行われた中国百科検定です。若い受験生の3人がネットからの申し込みでした。広島と高知からの受験でした。受験後の懇談会にも出席したいと言ってくれました。

私たちの呼びかけ次第で、若者に興味を持ってもらう機会はあるということ。ネットを活用する努力を続けて、さらなる拡大に取り組みましょう。」

次に来賓として、岡山華僑華人総会の劉会長があいさつされました。

昨年の技能実習生問題については、大変お世話になりました。現在も実習2年目の女性が闘っています。総菜の勉強に來たのに、洗い場だけの仕事で、給料もきちんと支払われなかった。今後も支援していきますので、よろしくお



願います。

来年、日中国交回復50周年を迎えますので、9月18日に記念行事を企画しています。ぜひ皆さんにも参加していただくよう、またご案内をいたします。」

続いて参加者の自己紹介です。河井理事長、小林事務局長、田中理事、小川理事、井堀夫妻、谷本さん(ヘルパー・ステーションいほりの介護士)、青木さん(近現代史研究者)、犬飼さん(倉敷支部)、稲葉理事、曾田理事、氏平さん(共産党県議)、青木事務局長次長、遅れて林さん(共産党市議)の順でした。

その後、議案討議に入り、議案書にそって説明が行われました。

日中岡山県支部連合会結成について、今年度中の結成に向けて、打ち合わせ会を積み重ねていることが報告されました。岡山・倉敷支部の理事の交流を促進するためにも、総会及び文化事業に双方が参加することが大切であると、犬飼さんより訴えがあり、9月4日の映画会「戦争と人間」へ、ぜひ岡山からも多くの参加をとのことでした。

太極拳活動報告の中で、2028年の第100期講習会を記念して、何か取り組みたいとのことでした。

中国語講座の活動では、餃子をつくる会に続いて、講師に協力をお願いして、交流する会を企画したいとのことでした。

ホームページなどの活動については、ツイッターやフェイスブック、中国アニメなど随時情報を更新するので、ぜひ一読してほしいと小川理事から訴えがありました。帰国者との交流及び自立支援のための活動については、後日、小林事務局長からの報告を掲載します。

平和をつくりだす活動では、稲葉理事から、過去の戦争責任について、忘れてはならないという

表記を「風化させてはならない」知らせなくてはならない」という表記に変えたことが報告されました。

残念ながら、2020年度の決算報告をきちんとした形で行うことができませんでした。河井理事長から、後ほど、何らかの形で正確な決算報告を皆さんにお知らせいたしますという言葉がありました。

2021年度の活動のすすめ方、岡山支部規約改定、予算案も承認されました。

新役員は次の通りです。

支部長・真田紀子、理事長・河井伸士、事務局長・小林軍治、事務局次長・青木正美、理事・稲葉泰子、曾田和子、竹内袈裟行、小川涼子、田中栄子、会計監査・木村周二。

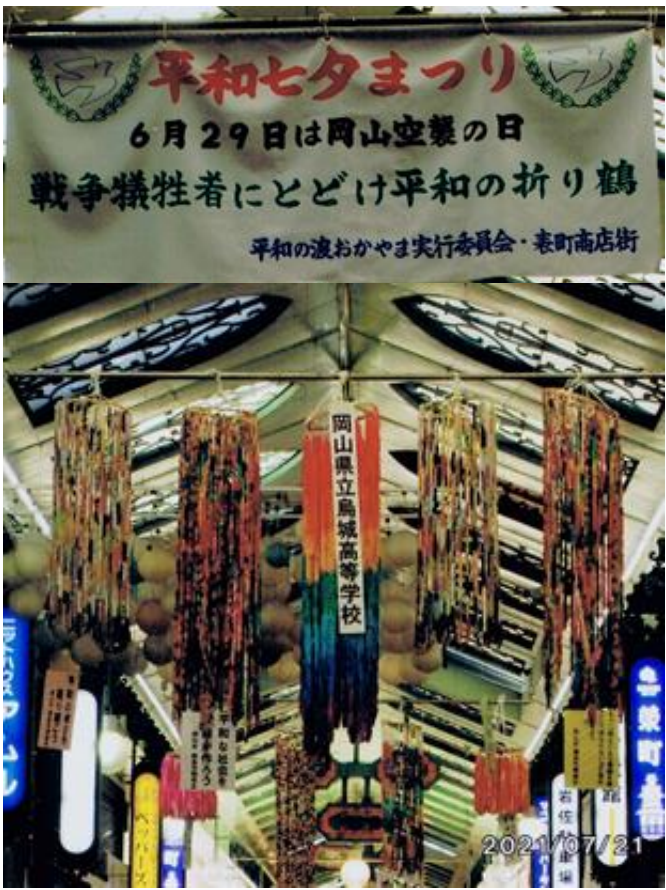


# 平和七夕まつり終わる

日中岡山支部 小林軍治

7月21日、表町商店街を中心に開催された「平和七夕まつり」が終わりました。この日、河井理事長、小林事務局長、小川理事でさんかく岡山前に飾り付けた折り鶴を搬出しました。回収した折り鶴は、青木裕子さんが車で家に持ち帰り保管しています。

この「まつり」は、1945年(昭和20年)6月29日の岡山大空襲と戦争で亡くなられた方々の鎮魂「ふたたび郷土を灰にすまい」、21世紀を平和な世紀にという想いから始めました。同時に「平和で歴史のある表町商店街に賑わいを」との願いも込められています。今年も、平和を願う39団体に



よる78作品、約20万羽の折り鶴が展示されました。

岡山市の教育長は、メッセージの中で次のように述べています。

「この平和を願う折り鶴運動は、小・中学校や高等学校でも取り組まれており、次の世代を担う子供たちが、平和について、歴史的に学び、感じ取り、行動する場となっていると思います。」

今回は、労働組合や民主団体とともに多くの小・中・高からの参加がありました。内訳(小学校2校、中学校12校、高校3校)保育園や児童クラブからの参加もありました。

日中岡山支部は、これまでの太極拳任せから、初めて理事会を中心にとりくみました。今後は、もつと輪を広げ、多くの会員が参加する行事として大切にしていきたい。

# 岡山15年戦争資料センターで「戦跡巡り」

青木康嘉

6月27日(日)、緊急事態宣言も解除され、県内の新型コロナウイルスの感染者数が一桁かゼロになったので、私の案内で上羽、橋本、柳井の4名で、満蒙開拓青少年義勇軍ゆかりの地を巡る旅をしました。まず向かったのは、笠井山公園です。備前原駅から車で約15分急勾配が上がっていきま



## ① 藤森中隊 友よ安らかに」慰霊碑

昭和20年5月12日、岡山県の旭川東部出身の義勇軍藤森中隊は175名が渡満した。勃利大訓練所から大茄子訓練所に入植した。前年度入植した村上中隊残留部隊(215名中185名は奉天の満飛工場や文官屯工廠へ移動)30名が出迎えた。遼陽に派遣された30名(全員引揚げ)を除いて、藤森中隊の145名と村

上中隊30名が勃利でソ連参戦の為に逃避行が始まった。14〜15歳のあどけない少年たちが3か月後に直面した艱難辛苦と悲劇は語れ尽くせない。ソ連機の機銃掃射にあい、飢えと下痢の苦しみにあ

い、9月20日東京で武装解除した時80人となった。ソ連軍監視下の収容所を抜け出し、延吉の監獄収容所に入った時には45人になった。そこは弱肉強食の世界で仲間の内、腕力の強いものだけが生き残った。八路軍の使役や農家の養子へ行く選択しか生き残る方法はなかった。昭和28年、新中国政府から帰国命令が出て、養父母に土下座をして帰国した。175名の内、98名死亡、行方不明・未帰還者15名、引揚げ者は62名だった。遼陽の軍事工場へ行ったものは全員引揚げたから、大茄子訓練所残留組の生存率は22%だった。私たちは献花をし、お線香を手向けた。

## ② 解放戦士之碑

義勇軍とは関係ないが、笠井山公園の近くにある「解放戦士之碑」にも行った。昭和44年4月建立された。戦前の共産党の活動し

た人や無産運動、小作人争議に活躍した名もなき解放戦士を慰霊するため、当時の人権にかかわる諸団体がいっしょになって建立した。岡山市長も応援してくれたそう

うだ。解放運動の岡映も墓標に名前がある。HPを見ると、国民救援会や人権連の人たち、立花元県議、竹内先生などがいつもきれいの掃除をしていたが、もう忘れ去られた存在なのか、高齢化なのか、草ぼうぼうで足を踏み入れるのも困難な荒れ果てた慰霊碑になっていた。もう5年以上は草を刈っていない感じである。ここでも献花と線香を手向けたが、とても個人の力では草抜きや掃除はできなかった。

次号へつづく



次回の新聞送付作業は8月11日(水)午後10時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

木飼林田内  
青犬小真竹